

第9回独立行政法人農林漁業信用基金農業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和元年9月20日(金) 13時00分～14時05分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル5階
独立行政法人農林漁業信用基金 第2会議室

2 出席者

(1) 運営委員

出資者：石田委員、井田委員、日下委員、小寺委員
学識経験者：深山委員、水上委員、宮川委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

(2) 信用基金

今井理事長、石井副理事長、出倉総括理事、森島理事、開沼理事

(3) オブザーバー(主務省)

諏訪農林水産省経営局金融調整課課長補佐、村上財務省大臣官房政策金融課課長補佐

3 提出議案

- (1) 農業信用保険業務運営委員会運営規程及び農業信用保険業務運営委員会運営細則の改正(案)について(審議事項)
- (2) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について(報告)
- (3) 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について(報告)
- (4) 中期目標を達成するための計画(中期計画)の変更について(報告)
- (5) 借入者の信用リスクに応じた保険料率の導入について
- (6) 融資機関等に対する農業信用保証保険制度の普及推進・利用促進の取組について
- (7) その他

4 議事経過の概要及びその結果

- (1) 議事に入る前に、水上委員長は、石田委員を委員長の職務を代理する者に指名した。
- (2) 引き続き議事に入り、信用基金から上記3(1)の議案について説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり決定された。また、これ以外の議案についても、信用基金から説明がなされた。

運営委員からの主な質問等は、以下のとおり。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。

【質問等】

- (1) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について
 - 資料2-1 関連の保険事業実績の概要について、30年度の保険引受が伸びた理由として、農協系統組織による保証料助成の効果とあるが、これは現場でも効果をひしひしと感じている。農業関係の資金需要も減っているため、農協系統組織においては引き続き継続していただけるようお願いしたい。
- (2) 借入者の信用リスクに応じた保険料率の導入について
 - 資料5について、「すべての農業者の財務データが揃えられる資金に限れば」とあるが、財務データが揃えられない融資案件が存在しているということか。
 - (基金協会によってはそういう案件があると理解している。かなりの案件について徴

求していると聞いているが、全体の母集団全部の条件が揃わないとできないということ整理している。)

○ 決算書が揃えられる資金は、どのような資金なのか。
(近代化資金や公庫転貸資金などの制度資金は、制度的に財務データを出すことになっているので、そういった資金では揃えられていると考えている。)

○ 政府の規制・制度改革委員会の指摘にある「経営努力の反映」というのは、全ての農家の経営努力よりも、それぞれの農家の経営努力が反映される形だと思う。農業を成長させていくうえでは、前向きな資金について、それぞれの農家の経営努力を保険料率に反映させる仕組みとしていくことが重要。前向きな資金に限定し、そのデータを集めて経営努力を反映させる、新たな分野を切り開く取組ができないかと思う。

(我々は、主務省から中期目標において「借入者の信用リスクを精緻化してそれに基づき保証・保険料率を作る」よう指示を受けて、その指示に沿ってできるものを検討しているところ。今後のための取組は、意見を踏まえ中長期的課題として勉強していきたい。)

(3) 融資機関等に対する農業信用保証保険制度の普及推進・利用促進の取組について

○ 資料6について、「普及推進の取組について効果的な取組を行っている基金協会の活動を他の都道府県へ共有」とあるが、面白い事例や広めていきたい事例があれば教えていただきたい。

(基金協会からは、保証が伸びている基金協会の取組を他協会に展開してくれないかという意見があるので対応していこうというものであり、これから事例集めに取り組んでいく。)

○ 信用保証協会においては、ほぼ全ての金融機関に対応しており、かなりノウハウがあり、何かしら参考になることが有るのではないかと思う。もう解消されている部分もあるかもしれないが、以前は事務手続の煩雑さが明確に違っていた。信用保証協会はシステムが繋がっていたが、基金協会は各県毎に様式が違うなど使い勝手が悪かった。そんな些細なことが利用に影響してくるかもしれない。

(インフラ面は、それに係る投資と効果を考えると、簡単ではないが、そういう前提の中で上手くできることをやっていきたい。)

(4) その他

○ 最近の低金利下では、安定的に運営していくには、保証料の確保が欠かせない状況。その中で、農業資金の保証は我々の大きな使命であるが、生活資金については、他保証機関との競合が厳しく、我々も様々な条件緩和をして手を打っている。引き続き、課題が山積しており、他機関へ対抗していくため、色々信用基金と一緒に対応していく部分もあると思うが、良い方向へお願いできたらと思う。

(我々も色々お話を聞かせていただきながら、協調してやっていきたい。)

以上